

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 18 年 3 月 30 日 (2006.3.30)

【公開番号】特開 2005-60691 (P2005-60691A)

【公開日】平成 17 年 3 月 10 日 (2005.3.10)

【年通号数】公開・登録公報 2005-010

【出願番号】特願 2004-222847 (P2004-222847)

【国際特許分類】

C 0 8 L 67/04 (2006.01)

B 2 9 C 45/00 (2006.01)

C 0 8 J 5/06 (2006.01)

C 0 8 K 7/02 (2006.01)

C 0 8 L 101/16 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 67/04 Z B P

B 2 9 C 45/00

C 0 8 J 5/06 C F D

C 0 8 K 7/02

C 0 8 L 101/16

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 2 月 14 日 (2006.2.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

本発明の射出成形体は、(A) 乳酸系樹脂、及び、(B) セルロース 40 質量% ~ 60 質量% とリグニン 10 質量% ~ 30 質量% とを含有する天然繊維、を含む樹脂組成物であって、(A) 乳酸系樹脂と (B) 天然繊維とを質量比で 99 : 1 ~ 70 : 30 の割合で含有し、かつ、前記 (A) 乳酸系樹脂が、L 乳酸 : D 乳酸 = 100 : 0 ~ 97 : 3、又は、L 乳酸 : D 乳酸 = 0 : 100 ~ 3 : 97 である樹脂組成物を用いてなることを特徴とする。

【請求項 2】

前記樹脂組成物の結晶化熱量ピーク温度 (T_c) は 100 以上であることと特徴とする請求項 1 記載の射出成形体。

【請求項 3】

射出成形体の荷重たわみ温度は 133 以上であることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の射出成形体。

【請求項 4】

前記 (B) 天然繊維を (A) 乳酸系樹脂に含浸 (浸漬) させた被覆物と、(A) 乳酸系樹脂とを混練した後、形成されることを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれか 1 項記載の射出成形体。

【請求項 5】

引き抜き成形によって前記 (B) 天然繊維を (A) 乳酸系樹脂に含浸 (浸漬) させた被覆物と、(A) 乳酸系樹脂とを混練した後、形成されることを特徴とする請求項 4 記載の射出成形体。